

2019

12月号

つなぐ

第18回 市民活動フェスティバル2019 開催!

+ 世代を超えて市民活動団体と地域の人々が交流 +



2019年11月10日(日)、浦安市まちづくり活動プラザ体育館にて第18回市民活動フェスティバル2019が開催されました。38もの市民活動団体が集結し、それぞれの活動についての情報を発信しました。天井が高く気持ちの良い日差しが入り込む体育館はとてにぎやか。各団体の展示・販売ブースが並ぶその上をドローンが飛び、舞台ではバンドやダンス、民謡、体操などのパフォーマンスが披露され、一体感のある雰囲気でした。今年は旧入船北小学校の跡地での開催ということで、その運動場を利用してミニサッカーやベゴマ体験も開催されました。



来場者のみなさんの声

お子様が通う保育園で配られたチラシを見て興味があり参加したという1歳と4歳の子連れのご家族は、「市内にこれほど多くの市民活動団体があるとは知らなかった」と驚いていました。また、ご主人と一緒に来たという60代の女性は、「スタンプラリーをまわりながら各団体のお話を聞いたが、それぞれの熱い想いを語ってくださり、活動に込める気持ちが伝わってきた」と話していました。他にも「身近にある市民活動について知るいい機会になった」という声が多数ありました。

参加団体のみなさんの声

「一般の来場者のみなさんに体験してもらい、喜んでいただけてうれしい」、「他の団体と交流できて楽しかった」という声が多数ありました。また、平均年齢の高い団体もあれば、子育て世代が中心の団体もあり、「世代を超えて団体同士の横のつながりができる貴重な機会だった」という感想もありました。

小学生くらいの子どもたちが「スタンプを押してください」と、スタンプラリーをきっかけにして参加団体の大人たちと会話をする様子が微笑ましかったです。そんな子どもたちと交流する大人たちのうれしそうな笑顔もまた素敵でした。団体のビジョンや活動について熱心に語ってくださった女性の方は、「ボランティアをはじめたのは団体のリーダーのお人柄に惹かれて話を聞きに行ったのがきっかけ」とのこと。今年から参加しはじめたばかりだそうですが、そのキラキラした表情からやりがいや楽しさが伝わってきました。地域にある様々な課題の解決を目指して活動している様々な団体について、たくさんの方に知っていただく機会となりました。

(市民ライター 西橋友理)

事例に学ぶ市民活動 ～はじめの一步から次の一步へ!!

他地域の先行事例から見つける「わたしにできること」

10月から11月にかけて、市民活動センター・うらやす市民大学、初の共催企画として開催された本講座は、市民活動の地域における役割などをしっかり学び、理解を深めた上で二つの事例へとつなげ、最終回は自分の周りにある「地域課題」に目を向け、その解決につながる方法を話し合う、全4回の連続講座。コーディネーターに「公益財団法人ちばのWA地域づくり基金」事務局長の志村はるみさんを迎え、市民活動に関心のある方、すでに活動している方など、のべ80人の参加がありました。

10/3(木)
第1回

「地域に拓く市民活動の価値と役割」

講師：認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事 牧野 昌子さん



まず、市民活動の定義からはじまり、ボランティアとの違いや地域課題について学んだ後、その役割を「ゆるやかに、市民全体で社会変革する役割」と位置づけられました。新しいニーズを掘り起こしたり、市民協働のさまざまなカタチを創り出していくこと、その強みを活かして他者と連携することが、今、求められているとも付け加えられました。

市民活動団体は制度の壁や予算の制限が少ないので、潜在的な課題に対しても、早期に柔軟な発想で解決を図れるのがメリット。また、松戸市の成功事例を元に、「市民活動団体が対話の場を設けること」の大切さが伝えられました。「幅広い立場の市民に参加を呼びかけ、共感を広げることが課題を解決する」、市民活動団体の大切な役割を改めて認識できました。



参加者の声

地域の課題を解決するにあたって、市民活動のみではなく行政や民間やいろいろな力がコミュニケーションを取り合っていくことが、とても大切だと気づかせてもらいました。

10/17(木)
第2回 校外学習

「築100年の木造校舎を活かして地域に新しい価値を創る」地域活動

講師：NPO法人報徳の会・内田未来楽校のみなさん

台風の影響を気にしながらバスに乗り込み、千葉県のちょうど真ん中に位置する内田未来楽校(市原市)を訪問。昭和3年に建てられたという小さな校舎は築91年、様々な歴史を経て内田未来楽校が買い取り、現在コミュニティ・スペースとして活用されています。「とにかく、学校を残したかった」とおっしゃる団体事務局の小出さんのお話はさらに続き「最初は資金調達のため朝市をやっていましたが、その内、ここに集まる人たちがやりがいを感じてみんな元気になっていくんです」とのこと。学校を拠点として地域の人たちが集まり、地域の良さを発見し人々が交流、つながりが生まれる、そんな場となっています。また、ご近所さんをはじめ多くの方々がボランティアとして活動に参加されたり、最近ではマルシェ開催により若い世代との交流も生まれています。誰かがやるのではなく「自分でやる」、このことが大事なんだとも力強くお話してくださいました。温かなおもてなしと里山の風景もあいまって、心がほっこり、とても充実した一日となりました。



参加者の声

地域の良さをすごく感じました。自分ができること、自分たちで出来ることを考えたいと思いました。足を運んでこそ知ることが出来ました。

11/7(木)
第3回

「一人ひとりの価値を認め合える地域社会を創る」市民活動

講師：NPO法人子どもの環境を守る会Jワールド 三浦輝江さん

家に帰っても「お帰り」の声がない、誰かといっしょに食事するといった日常からほど遠いところにいる子どもたちの中には、さまざまな事情により安全で安心して過ごせる「居場所」を持っていない子どもがいます。その子どもたちに対し、正面から向き合い支援している団体がJワールドです。その理念は「あなたは高価で尊い宝物！ひとりひとりが素晴らしい！」。講座の中でも何度も紹介されました。決して24時間365日対応ではないけれど、絶えず子どもたちを気にかけて、「ずっといられる、いつでも行ける居場所」を提供しています。子どもたちは、ここ(安心して過ごせる居場所)に来たいからルールや約束を守れるようになり、その内「ヤンチャぶり」は鳴りを潜めるといいます。子どもたちにとって、居場所があること、子どもたちがその存在を知っていること、スタッフの懸命な支援が必要です。特に中学生に対しては「命がけの支援を」と言い切る三浦さんの表情からは、子どもたちと向き合う覚悟が感じられました。



講師：三浦輝江さん



参加者の声

家、学校以外に居場所がある。と言うことは、非常に必要なことだと感じていました。たくさんの人、大人にかかわれると道も開けていくと思いました。安全、安心の場所、浦安にもある。

11/21(木)
第4回

「“地域資源”×“地域課題解決”を軸にはじめの一步、次の一步をカタチに」

講師：公益財団法人ちばのWA地域づくり基金 事務局長 志村はるみさん



最終回では、今までの振り返りを行った上で個人ワークとして地域課題探し、そして、グループワークで地域課題の中からその解決に向けて仲間集め、方法、必要な資源について話し合いました。参加者のさまざまな気づきの中から出た課題は4つ、「子どもをはじめ誰でも24時間対応で駆け込める場所作り」「日本で就労している外国人の家族が日本の文化、風土、学校に馴染むために」「世代間交流 子育て世代～高齢者」「人生100年 健康でいきいきと希望を持てる高齢者の社会を」。自分の住んでいる地域の状況と課題を踏まえ、SNSの活用やラジオ体操などの取り組み方法について、具体的な内容、方法について積極的な意見交換がなされました。参加されたみなさんは、それぞれ「わたしの次の一步」を見つけられたことでしょう。



参加者の声

ふだんお話する機会のない方々と気になっている事についてお話でき、それぞれの課題を知ることができた。いつか何かを実践できるとよいと感じた。

市民活動とは地域課題解決のため、市民が主体的に活動すること。活動する上で「何のために＝地域課題の解決」という視点はとても大切です。また、その「何のために」を持続することはさらに重要です。ともすれば、発足当初の目的がやや薄らいでしまったり、いつの間にか自己満足的な活動に陥ってしまったり…。今回、事例として紹介された二つの団体は、「何のために」、「取り組む地域課題」が明確で全くブレることがありません。それどころか、「学校を残したい」から「地域交流の場」に、というように(第2回)、活動中での気づきが活かされ、さらに課題解決へと活動がひろがっています。困っている誰かのために、地域活性化のために活動したい、そんな思いが活動の原動力となり、周囲の人たちをどんどん巻き込み、やがては共感が「いっしょに」に変わっていきます。市原市での内田未来楽校、松戸市でのJワールドの活動、まちの成り立ちや状況はそれぞれ違い、当然、地域課題も異なりますが、活動のいわば「根っこ」の部分は同じ。他地域での事例そのままを自分のまちに置き換えることはできませんが、地域課題に向き合う思いや姿勢、周囲を巻き込んでいくことの大切さは共通です。講師の熱のこもったお話やエピソードをおり交ぜての具体的な事例紹介は、参加者の気持ちを「はじめの一步」へと後押し、さらに「次の一步」へと導いてくれる道標になりました。

この団体に注目!

ルフラン

小学校で子ども達に本の読み聞かせを行っていたメンバーで団体を立ち上げたのが活動のきっかけです。

その後、活動場所を学校から地域へ、内容も本の読み聞かせだけではなく、紙芝居、人形劇、そして劇へと広げ、今年1月に新しい団体「ルフラン」として活動を始めました。

「人が目の前で語り、演じる姿を子どもたちにぜひ見て欲しい。デジタル全盛の時代だからこそ、きっと新鮮に映ると思います」と代表の田中恭子さん。最近もこども園や自治会のお祭りなど

に招かれ、紙芝居でデジタル媒体とは違った楽しさを伝えています。先日の市民活動フェスティバルでは、飛び入りの子ども達も参加して一緒に劇を演じるという新しい取り組みにもチャレンジしました。自分の声や身体を存分に使うことによって、想像の世界を広げ、わくわくする時間を持てるのがルフランの活動の魅力です。今後は子どもだけでなく、高齢者施設なども訪問し、幅広い年代の方に楽しい時間を提供していきたいそうです。



募集

備品ロッカー・メールボックスの 利用団体を募集しています

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーと、郵便物などを一時保管するメールボックス(レターケース)を貸し出しています。

■ **申込期間** 12月1日(日)～12月20日(金)

■ **申込方法** 直接、市民活動センターへ

※ 申込多数の場合は抽選となります。

● 備品ロッカー

サイズ: 高さ56cm × 幅29cm × 奥行き49cm (鍵付き)
貸出数: 27個
期 間: 令和2年1月～6月(6ヶ月)

● メールボックス

サイズ: 高さ7cm × 幅23cm × 奥行き33cm (鍵なし)
貸出数: 42個
期 間: 令和2年1月～12月(12ヶ月)

※ 定期的に郵便物を取りに来ることができる団体に限ります。
※ どちらも市民活動センター開館時間のみの利用可能。

うらやすNPOウィーク2020参加団体募集

市民活動センターとその正面にある市民ホールを会場に、1週間を通して展示とワークショップで市民の皆さんに市民活動の魅力を伝え、体験してもらう催しです。ぜひ、ご参加下さい。

開催概要

● 展示

期間: 2月16日(日)～23日(日) 市庁舎開庁時間内
場所: 市庁舎1階・市民ホール
募集団体数: 15団体
展示スペース: タテ120cm × ヨコ170cm
※ 参加団体が常駐する必要はありません

● 日替わりワークショップ

期間: 2月16日(日)～23日(日)の1日
※ 但し、市民活動センター開館時間内の希望時間帯(要調整)
場所: 市民活動センター・交流サロン
募集団体数: 7団体(原則1団体/1日)
内容: 団体の活動に関する講座、講習会、体験・参加型のミニイベントなど

※ 申込期間: 12月15日(日)～1月10日(金) **先着順**
※ 所定の申込用紙にてセンターへ直接、Eメール、FAXにてお申し込み下さい。なお、FAXについては送信後、**必ず電話にて着信確認**をお願いいたします。
申込用紙はセンターに置いてある他、センターホームページからダウンロードできます。
※ 展示、日替わりワークショップ両方への申し込みも可能です。
※ 1月26日(日)午前10時～ 市民活動センターにて事前説明会を行います。

お知らせ

市民活動センター年末年始の休館日 12月28日(土)～1月4日(土)

編集後記

- 市民活動団体と地域活動団体(自治会、PTAなど)をつなぐ、「つなぐプロジェクト」の新しい冊子が完成し、該当団体にお届けしました。すると、さっそく児童育成クラブの方が窓口に来られ、複数のプログラムを申込まれました。子どもたちが長い時間を過ごす場所ですが、地域とのつながりはあまりないとのこと。これをきっかけにつながりができて、地域の方と子どもたちが顔見知りになるといいですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行: 浦安市市民活動センター
2019年12月10日

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎1階)
TEL: 047-305-1721 / FAX: 047-305-1722
E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp
URL: <http://u-shimin.genki365.net>